

クリフエス開催！

普段は見れない一面を

12月4日(土)のGIFEC終了後、大体育館でクリスマスフェスティバル2021(以下クリフエス)が行われた。毎年、生徒は自由に参加できるクリフエス。しかし、新型コロナウイルスの猛威が収まらない中、感染症対策のため、今年は入場する際には整理券が必要であったため、参加できなかった生徒も多いのではないだろうか。



Midnightを踊るダンス部

クリフエスは毎年12月のGIFEC終了後に文化委員会が主催しているイベントである。活動の場が少ない文化部の発表の機会を設け、全校の皆さんに文化部の活動に興味を持ってもらうために開催されており、今年も、軽音楽部・室内楽部・ダンス部のパフォーマー、文学部の内輪本(文学部員が作成する小説・イラスト集)の配布が行われた。なにより、今回注目すべきは文化部の生徒たちの努力だろう。コロナの影響を受け発表の機会が少なくなってしまうが、クリフエスを盛り上げるために、各部活動の中で練習を重ね、放課後を使

って入念なりハーサルが行われた。「練習する中で、演奏に入るタイミングと弓の使い方がみんな揃えることが大変でした。ですが当日は会場にいる皆さんに弦楽器の演奏を聴いていただいで、弦楽器の良さを伝えられてよかったです。」と室内楽部の部長は声を弾ませた。練習中に苦戦することがあっても、クリフエスに向けて準備をすることで良いパフォーマンスができたようだ。また、取材する中で、観客側だけではなく、パフォーマーも楽しんでる側の人たちも楽しんでる様子や、これこそクリフエスのいいところで、活動の場が少ない文化部の発表の機会を設ける

ために開催されている意義があると感じた。来年度も開催する予定でいる。クリフエスに関する詳しいことは文化委員長の2年6組丸山華歩さんまで。また、発表する側として参加したい人は軽音楽部・室内楽部・ダンス部・文学部のいずれかに入部し、主催側としてクリフエスを裏で支えたい人は文化委員会に入る必要がある。興味のある方は来年度には是非!(文責:和田・岩崎)



アイネクライネナハトムジークを演奏する室内楽部



ブルーベリーナイツを演奏する軽音楽部

フェアトレードチョコレートとは？

背景に潜むある社会問題

先日、フェアトレードチョコレートの予約販売が行われた。毎年、バレンタイン前に英語部が須坂高校の生徒・先生を対象に販売しているフェアトレードチョコレート。皆さんは、このチョコレートが何なのかご存知だろうか。フェアトレードチョコレートとは、チョコレートの原材料となるカカオ・砂糖などを、原料生産者から適正な価格で直接購入し継続的に取引する「フェアトレード(公正な貿易)」により、生産者の生活向上を支援し、貧困問題の解決を目的とする取り組みだ。農業不使用など環境に配慮したのも多く、作る人にも食べる人にもやさしいチョコレートだ。

このフェアトレードチョコレートは販売する背景にはある社会問題が潜んでいる。チョコレートは、赤道を中心とした栽培されており、その多くは仲買人が決めた価格で取引され、立場の弱い生産者に適正な価格が支払われず、十分な収入が得られない。そのため、貧困や児童労働などの問題が生じている。2月上旬に販売され、予約者以外の人にも買える当日販売も行われる予定だ。チョコレートの種類は各教室内に掲示中。商品の重量は50gで、寸法(長さ×幅×高さ)は13×5×1cm。予約以外の当日販売のチョコレートは数が少ないので、欲しいチョコレートがある人は早めに行った方が良さそう。購入すること支援に繋がるフェアトレードチョコレート。この機会に、今回予約しなかった人も是非当日購入してみてもどうだろうか。不明な点や詳しいことは英語部まで。

(文責:酒井)



今回販売されるフェアトレードチョコレートのHP